

わたしたちの国に伝わる歌や声の表現に親しもう
5年組 番 名前【

月 日

第1時：民謡の特ちょうをくらべながらきこう。

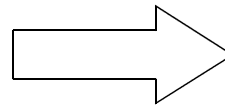
○「会津磐梯山」「音戸の舟歌」をきき、①音色②せんりつ③拍によって生み出されるよさや面白さについて考える。

※「拍のあるリズム(八木節様式)」「拍のないリズム(追分様式)」

○「音戸の舟歌」の特ちょうについて、まとめる。

①音色〔歌い方〕 ②せんりつ ③拍〔ある・ない〕

生み出されるよさや面白さ



○我が国の民謡の特ちょうについて、気付いたことや感じたことをまとめる。

--

月 日

第2時：音色、せんりつ、拍のないリズムを生かしたふし回しや歌い方の工夫について考えよう。

- 「焼きいも売りの声」を歌って、自分が歌った音の上がり下がりやを「文字」と「線」で表す。
- 言葉の抑揚とせんりつの上がり下がりや、くり返し方などの音楽の仕組みを工夫して、「商売の声」をつくる。

焼きいも売りの声	
(売りの声)	

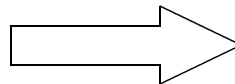
- 音色、せんりつ、拍を生かした歌い方の工夫を手がかりとして、「会津磐梯山」と「音戸の舟歌」の紹介文を書く。

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>
--

第3時：日本の民よりの仕組みを使って、「あおやぎぶし」の歌詞とせんりつをつくろう。

- 青柳小での生活の中で、自分の周りに存在している言葉を書く。
- 歌詞の抑揚に合う音の上がり下がりをつけて歌う。
- 自分の青柳小学校への思いが伝わるように、歌詞の抑揚に合う音の上がり下がりや仕組みを工夫して「あおやぎぶし」をつくる。

『青柳小学校』と言えば…。



「あおやぎぶし」をつくってみよう。

○日本の民よりの仕組みを使って「あおやぎぶし」の歌詞とせんりつをつくって気付いたことや感じたことをまとめる。

第4時：音楽の構成を工夫して自分の思いが伝わる「あおやぎぶし」をつくろう。

○友達ときき合いをしながら、自分の思いや考えが伝わるような構成になるよう工夫する。

例：同じ言葉をくり返す。声の出し方や音の上がり下がり工夫する。「囃子ことば（合いの手）を入れる。

〔囃子ことば〕

〔囃子ことば〕

○友達とかかわりながら音楽の構成を工夫したことで、自分の思いや考えがより伝わる「あおやぎぶし」になったのかどうかについてまとめる。

第5時：日本の民よりのよさについて、自分の考えをまとめよう。

自分のめあて

- 「あおやぎぶし」の発表会をする。
- つくった人の思いや考えが伝わるような構成になっているかどうかについて、意見を出す。
- 友達の中から「マイベスト『あおやぎぶし』」をえらび、えらんだ理由を書く。

○拍のないリズム（追分様式）が生み出すよさや面白さについて学習したことをふまえて、人々の生活や社会の中で歌いつがれている我が国の民よりのよさについて、自分の考えをまとめる。
